

What's The Alexander Discipline Study Club of JAPAN?

KISS

KEEP IT SIMPLE SIR!

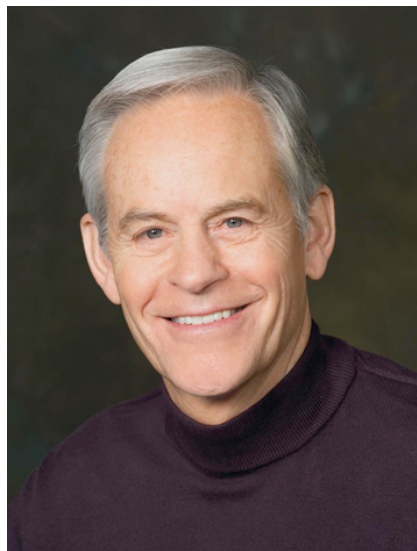
アレキサンダー研究会
スーパースマイルを求めて



ALEXANDER
DISCIPLINE
STUDY CLUB OF JAPAN

INTRODUCTION

アレキサンダー研究会は、 「スーパースマイル」を追い求めます。



アレキサンダー研究会が1984年に発足して以来、本会のメンバーたちがアレキサンダー・ディシプリンを使って治療した症例数は膨大な数にのぼります。患者さんにとって快適で効率良く、質の高い治療結果を獲得したい、というアレキサンダー法の理念に基づいて臨床に取り組んで来ましたが、今、私たちはその確かな手応えを感じています。そして、アレキサンダー先生の言われる”スーパースマイル”が私たちの患者さんの顔に溢れ、それぞれが自信を持って自分の人生を歩んでくれるだろうという楽しみをもてるようになりました。私たち矯正歯科医にとっても、これは大きな誇りであり喜びでもあります。様々な立場で矯正歯科を担っている者が、よりよい臨床を学ぶために集い、良い仲間とともに、より高い目標を目指して努力しています。それがアレキサンダー研究会です。私たちは、患者さんに喜ばれ自分も納得する「スーパースマイル」を常に追い求めています。

研究会の始まり ウィック先生との出会い

Dr. R.G. "Wick" Alexander が1979年、札幌にて行われた日本矯正歯科学会における特別講演の演者として初来日され、その時 "The Vari-Simplex Discipline" (VSD)について講演されて以来、その治療方法および概念が日本の一部の矯正臨床医の間で注目されるようになりました。1981年にはVSDの基本から臨床応用までを網羅したベーシックコースが開催されるようになり、以降、回を重ねるにしたがってアレキサンダーテクニックへの関心は非常に高まっていきました。そうした中で、アレキサンダー先生から学んだ技術を実際に日常の治療に使う矯正歯科医の先生方の中には、互いに知識を分け合い技術を高めていけるような研究会の創設を強く望む声が非常に高まってきました。そこで、1985年に浅井保彦先生、小山勲男先生、出口敏雄先生、佐藤英彦先生の4人が発起人となりVSDの研鑽を通して矯正臨床の向上と会員相互の友情と親睦を深めることを目的に、VSD研究会が誕生しました。

1989年、Dr. AlexanderがVSDから"The Alexander Discipline"と治療体系を改称されたのに伴い、1990年からアレキサンダー研究会 (Alexander Discipline Study Club of JAPAN)へと改名し現在に至ります。

(1994年には大阪市にて10周年記念大会、2004年に奈良市にて20周年記念大会が盛大に開催されました。)

VSD研究会発会式

開催日：1985年7月14日 於：栃木・那須口イヤルホテル

発起人：浅井保彦/小山勲男/佐藤英彦/出口敏雄

当日は東京周辺で集中豪雨があって交通網がマヒしたため出席できなくなった先生もいました。それでも30名の先生方が出席。小山発起人の司会のもとで今後の方向性を話し合い、互いの研鑽を誓い合いました。

研究会のモットー：Learning should be fun !

“楽しく学ぶ”

私たちはプリンシプルコースに参加して、アレキサンダー先生がよく口にする ”Learning should be fun !” (楽しく学ぶ) の意味を教えられました。プリンシプル、アドバンスの各コースでは、朝の挨拶代わりにみんなで”Good Morning to you ~”と歌をうたいます。これには最初、面食らって、何か別世界にでも迷い込んでしまったような感じを受けた受講生の先生もいました。

私たちは、自然にアレキサンダー先生の誰にでも心を開き、快活で人を引き付けてしまう魅力に吸い寄せられていったのかもしれませんが。そして、いつの間にか、単なる技術向上のみならず、「患者のため」の矯正臨床という大切なものの意味がわかってきたような気がします。

研究会会員は日本全国各地から

アレキサンダー研究会には、全国各地から会員が参加します。また、例会の開催地も全国各地にわたります。今までいろいろな地で、土地柄を反映した例会が催され、それぞれが思い出深いものとなっています。



アレキサンダー研究会例会開催地 1985.07 - 2008.10

第1回	1985/07/14	那 須	30名
第2回	1986/07/19	六 甲	36名
第3回	1987/07/09	箱 根	42名
第4回	1988/07/09	東 京	53名
第5回	1989/07/08	京 都	59名
第6回	1990/07/04-05	大 磯	76名
第7回	1991/06/11-12	彦 根	64名
第8回	1992/09/04-05	東 京	66名
第9回	1993/09/02-03	神 戸	81名
第10回	1994/07/13-14	千 里	399名
第11回	1995/11/06-07	早稲田	60名
第12回	1996/07/10-11	大 阪	66名
第13回	1997/06/27-28	岐 阜	61名
第14回	1998/07/02-03	鎌 倉	46名
第15回	1999/07/06-07	奈 良	89名
第16回	2000/06/21-22	お台場	65名
第17回	2001/06/26-27	京 都	66名
第18回	2002/06/25-26	札 幌	63名
第19回	2003/07/01-02	磯 子	64名
第20回	2004/09/18-20	奈 良	216名
第21回	2005/06/18-20	小淵沢	72名
第22回	2006/06/28-29	京 都	66名
第23回	2007/11/07-08	早稲田	71名
第24回	2008/10/29-30	神 戸	89名

研究会の基本活動

研究会の基本活動

アレキサンダー先生は自分の歩んできた道を振りかえって、矯正技術を向上させるには

- ①研究会や矯正学会等のメンバーになって会の活動に積極的に参加すること
- ②研究会や学会に自分が治療した症例を発表し評価を受けること

の2つが非常に大切であると常々助言してくれます。

私たちは矯正臨床の向上という目的達成のために、このアレキサンダー先生の助言を会の活動の基本に取り入れました。

- その上で、
- ①アレキサンダー研究会例会の開催
 - ②アレキサンダー研究会会誌の発行
 - ③書籍、症例集等の出版活動
 - ④国際交流活動 等

をアレキサンダー研究会の基本活動内容としています。



アレキサンダー研究会例会

本研究会の例会は、毎年1回、アレキサンダー先生の出席のもとで1～2日にわたって開催されます。例会では、症例展示、グレーディング等を始めとした活発な会員活動が行われています。

症例展示/グレーディング

矯正臨床向上を目指した症例展示と評価

日本では、症例展示はあまり一般的ではありませんでしたが、会の発足当時には症例展示を義務づけた研究会が徐々に誕生していました。しかし、そういった研究会に参加する先生方の間に「せっかく準備して展示したのにそれを生かすディスカッションとか、評価が十分なされていない。」という問題が生じていました。幸いなことに、本研究会はこの問題に対して次の2つの有利な条件を備えていました。

①会員が皆同じテクニックを使っている。

②優れた矯正臨床医として世界的な知名度を持つアレキサンダー先生から、直接評価を受けられる。

私たちは、「自らのレベルアップのために症例展示に全力を尽くそう。」「それがドクターとしての使命であり、患者さんを幸福に導くことができ、そして研究会の発展にもつながるもの」と、強く決意しました。会発足の翌年、1986年から症例展示をスタートさせ、第1回の症例展示には21名の先生方から合計52症例が発表されました。



研究会の基本活動

会員から所定の様式によって提出された症例は7部門（Class I、II、III の Non-extraction および Extraction 症例、そして Unusual 症例）に分類され、アレキサンダー・ディシプリン・アドバンスコース初日から本研究会の例会終了の期間、会場に展示されます。症例は、アレキサンダー先生の評価を受け、先生が標準と見なしている水準以上に治療されている症例には、”Good job!”と評してゴールドシールが授与されます。全ての部門においてゴールドシールを獲得するとAAA（Alexander Achievement Award）証書が授与されます。

アレキサンダー先生は、アドバンスコース、講演会、例会期間中に夜を徹して全症例を審査し、成績をつけ各症例にコメントを加えます。先生のこのすさまじき努力と的確なコメントにメンバー全員はいつも非常に感謝しています。第1回、2回の症例展示の頃は、アレキサンダー先生から「分類はあくまでもAngleの不正咬合分類とし、例えば骨格性III級であっても大臼歯関係がI級ならば、その症例はI級の分類に入れて展示すること」などと展示方法の細かい点まで具体的に指示されました。また、「治療結果が良いにもかかわらず治療途中のレコード（写真、X線などの資料）がそれに伴っていない」と指摘されたり、治療の質については、「II級エラスティックスとタイバックをきちんとやれば、もっと良くなっていた。」とか、「第一大臼歯の遠心ローテーションが不十分」と厳しくかつ具体的にアドバイスされました。こうして私たちは自分自身の症例に記された評価のみならず、他の人の症例からも大いに学ぶ機会が与えられたのです。展示症例数は、1回目が52症例、2回目は56症例と毎年増えていきました。同時に、審査基準も少しずつ厳しくなってきました。ゴールドシールを授与した症例に対して「ABO（American Board of Orthodontics）にも合格する質の高いもの」と、アレキサンダー先生から激励されながら、私たちメンバー同士学び合って技術を向上させてきました。毎年、何名かの会員が、7部門全てにおいてゴールドシールを獲得しAAA証書を授与されています。

症例展示の方法に関しては規格の統一化を図るため、10周年を機に冊子「症例展示マニュアル」を作成し、現在は改訂版を研究会ホームページよりダウンロードできるようになっています。

アレキサンダー先生の評価項目

1. Record
2. Diagnosis
3. Treatment Plan
4. Results : a. Occlusion
b. Appliance Control
c. Skeletal and Profile
d. Others
5. Quality
6. Additional Comments

グループディスカッション

例会では、会員が数名の小グループに分かれて、興味のあるテーマについてディスカッションを行います。さわやかな朝食会形式の「モーニングテーブルディスカッション」や、とことんまで意見を交える「ミッドナイトディスカッション」、懇親会で十分親交を深めた後の「アフターディナーディスカッション」等、いろいろな趣向で催されます。また、「ミステリーケース」と題されたディスカッションでは、治療済みケースの初診時の資料が提示され、このケースの治療法をグループで考え、発表します。その後で、アレキサンダー先生の講評を受けます。こういった機会は、「矯正診断のシミュレーションとして、大変勉強になる」と多数の会員から支持されています。

会員発表

会員の研究や症例報告、日常臨床やマネジメントの工夫等、バラエティに富んだ内容の発表が行われています。

教育講演

経験豊富なベテランの会員の先生方にアドバイスのような教育講演をお願いしています。

特別講演会

折を見て、広いジャンルからホットなゲストスピーカー迎えて講演会を行います。



<http://www1.fctv.ne.jp/~mine-m2/adscj/index.html>